



錦江湾の魅力 ～世界に誇る霧島学③～

6 月 2 6 日 (水) の G S は、世界に誇る霧島学の第 3 弾として、鹿児島大学水産学部教授の大富潤先生に講演していただきました。大富先生には昨年度もお話していただきましたが、講演をきっかけに海洋学に興味を持ち、水産学部に進学した生徒もあらわれるなど、大変好評であったため、本年度もお願いすることにしました。

「錦江湾の魅力」と題する講演で、先生は日本で唯一「内湾にして深海」という特色を持つ錦江湾が海洋生物の宝庫であることを、楽しくお話して下さいました。生徒たちは、深海探査船で撮影された映像や、大富先生御自身が発見・命名された新種の「サツマテッポウエイエビ」、錦江湾にしかない「ナミクダヒゲエビ」など、海の生き物にまつわる話に大変興味を持った様子で、身近な海が、世界でも珍しいほど豊かな探究資源を持っていることを学ぶことができました。



クイズ「本当にいる魚は？」



一体感のある講演

< 生徒の感想から >

① エビが赤いのは、海の色と逆になるためであることや、ナミクダヒゲエビの 4 本の触角は呼吸をするためストロー状となっていることなど、生き物の機能はそれぞれ意味があり、それが思いもしない機能だったりして驚きました。また、深海の魚は消化酵素をたくさん持っているためおいしいなど、豆知識までえることができ、とても楽しい話でした。

② 私は、鹿児島に住んでいるのに錦江湾について全然知りませんでした。内湾で深海があるのはココだけ！ナミクダヒゲエビ専門の漁業者がするのはココだけ！など、日本や世界でココだけ！がたくさんあってすごいと思った。

③ 今日の講演で、身近にある海がこんなに素晴らしいところだということにとっても驚いた。身近な場所でも多くの大発見があることが分かったので、自分のこれからの活動でも、身近な場所への興味や関心を大切にしていきたい。



質問に答える大富先生